

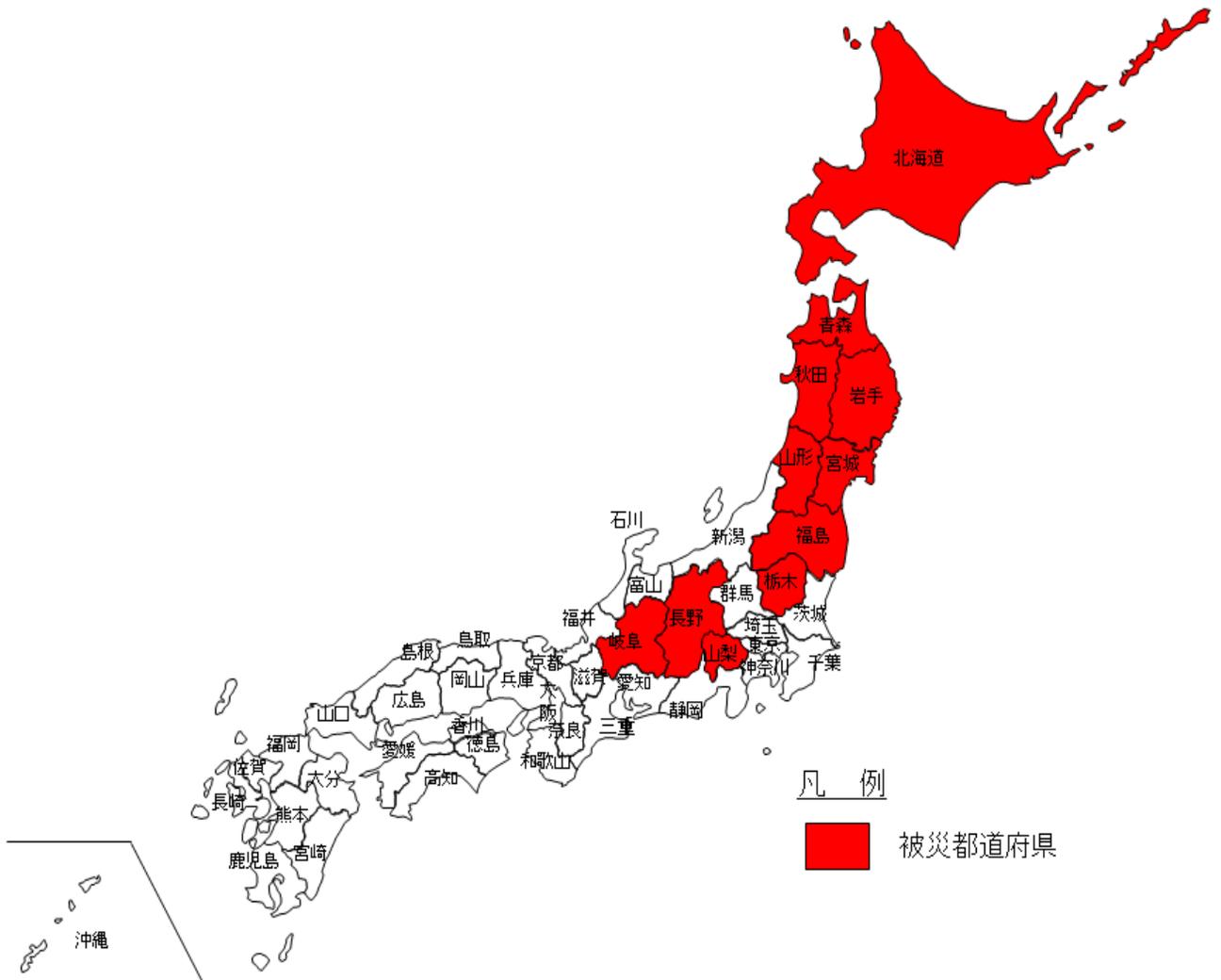
# 今冬の低温による凍上災

## (平成24年凍上災)の災害復旧事業費を決定

○ 暖かい地方の皆様には馴染みのない災害かと思いますが、今冬の異常な低温により、北日本を中心とする11道県（北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、栃木県、山梨県、長野県、岐阜県）で「凍上災（※）」が発生しました。

このため、11道県で約2,000箇所、約330億円を採択しました。

※凍上災とは、凍上現象により道路舗装のひび割れが路盤まで及ぶなどにより道路に被害が発生する災害です。詳しくは4ページをご覧ください。



平成24年10月

国土交通省 水管理・国土保全局

# とうじょうさい 凍上災の概要

## ○ 凍上災とは

凍上現象により道路舗装のひび割れが路盤まで及ぶなどにより道路に被害が発生する災害です。放置しておくとも路面の平坦性が失われ、ひび割れた舗装の一部がはがれるなどし、交通事故を引き起こす恐れがあります。

凍上現象による災害は、次の2種類です。

- 【1】冬期の低温によって道路の路床に大きな霜柱が発生し地面が隆起することにより道路舗装にひび割れなどが発生したもの。
- 【2】春の融解期に起こる路床の支持力低下により、道路舗装に沈下と亀甲状のひび割れが発生したもの。

## ○ 凍上災が生じた道路の状況



舗装面の亀甲状クラック



舗装面の盛り上がり、沈下



舗装剥離による穴

## ○ 平成24年凍上災の状況



【長野県】国道144号(上田市管平)



【青森県】町道中村・大池線(東北町)



【秋田県】市道水上村杉線(大仙市)

## ○ 採択の範囲等の決定

今冬の異常な低温による凍上災が、東日本を中心とする多くの地方公共団体から報告されたことから、国土交通省では4月6日に凍上災の採択の範囲等を決定し、地方公共団体へ通知するとともに、プレスリリースを行いました。

これは、例年に比べ1箇月以上早い時期での通知となっています。

### 問い合わせ先

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課  
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3  
TEL 03-5253-8111 FAX 03-5253-1607

国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure and Transport Japan Press Release  
平成24年4月6日  
水管理・国土保全局

今冬の低温による凍上災について  
～凍上災の採択の範囲等を定めました～

凍上災とは、冬期の低温によって道路の路盤中に霜柱が発生することによる地面の隆起等により道路舗装面にひび割れなどが発生する災害です。(別紙-1)  
今冬の異常な低温による凍上災が、北日本を中心とする多くの地方公共団体から報告されたことから、国土交通省では凍上災の採択の範囲等を定め、本日(4月6日)付けで地方公共団体向けに通知しました。  
今後、被災した地方公共団体からの災害状況の報告、申請に基づき、災害査定を実施し、早期の復旧を図ってまいります。  
また、全国規模での凍上災は平成18年以來6年振りであることから、国土交通省では早期復旧に向け災害査定官を現地へ派遣し、希望する地方公共団体を対象に申請にあたっての技術的助言等を行う現地講習会を開催する予定としています。(別紙-2)

問い合わせ先  
国土交通省 水管理・国土保全局  
防災課 課長補佐 木村 秀治  
審査係長 平藤 淳一  
代表 03-5253-8111 (内線35753)  
直通 03-5253-8458

# 災害査定の実施

○ 災害査定は、6月19日に開始し、各地で精力的に行い9月14日に完了しました。

査定週	査定件数											合計
	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	栃木県	山梨県	長野県	岐阜県	
6月	19日～										57	57
	25日～						65					65
7月	02日～					97						97
	17日～				38			21				59
	23日～						111					111
	30日～	14		38	125	47		31			77	332
8月	06日～		130	167	75							372
	20日～			212			150	76		12		450
	27日～		56		55		65	52				228
9月	03日～			89								89
	10日～						99					99
合計	14	186	506	293	144	490	159	21	12	77	57	1,959

## 平成24年凍上災の採択結果

○ 災害査定の結果、11道県において1,959箇所、327億円を採択しました。今後、現地において着実に工事が進められるよう被災した地方公共団体を支援して参ります。

	査定決定箇所数	査定決定額(億円)
北海道	14	2
青森県	186	29
岩手県	506	81
宮城県	293	47
秋田県	144	22
山形県	490	92
福島県	159	20
栃木県	21	3
山梨県	12	4
長野県	77	16
岐阜県	57	10
合計	1,959	327

Press Release  
平成24年10月3日  
水管理・国土保全局

**国土交通省**  
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Japan

今冬の低温による凍上災の災害復旧事業費を決定  
～ 北日本を中心とする11道県で約2,000箇所を採択 ～

凍上災とは、冬期の低温によって道路の地盤中に霜柱が発生することによる地面の隆起等により道路舗装面にひび割れなどが発生する災害です。(別紙-1)

今冬の異常な低温により、北日本を中心とする11道県(北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、栃木県、山梨県、長野県、岐阜県)で凍上災が発生したため、被災した地方公共団体において災害査定を実施しました。(別紙-2)

今般(9月14日)、災害査定が完了し、11道県で約2,000箇所を採択しました。

問い合わせ先  
国土交通省 水管理・国土保全局  
防災課 課長補佐 木村 秀治  
審査係長 平館 淳一  
代表 03-5253-8111 (内線35753)  
直通 03-5253-8458 (FAX03-5253-1607)

平成24年10月3日プレスリリースしました。

○ 全国規模での凍上災は、平成18年以来6年振りです。

# 現地講習会の開催

○ 全国規模での凍上災は平成18年以来6年振りであることから、国土交通省では早期復旧に向け災害査定官を現地に派遣し、希望する地方公共団体を対象に申請に当たっての技術的助言等を行う現地講習会を開催しました。その際、現地に赴いた担当官（災害査定官）は、開催場所の市長村長と災害復旧事業全般について意見交換し、首長の皆さんのご質問等にお答えしました。

	開催日	開催場所	参加市町村
青森県	5月22日（火）	講習会：十和田市 （十和田合同庁舎） 現地視察：十和田市	青森市など40市町村
岩手県	4月27日（金）	講習会：盛岡市 （岩手教育会館） 現地視察：八幡平市松尾町	盛岡市など25市町村
宮城県	5月9日（水）	講習会：仙台市 （宮城県庁） 現地視察：大衡村	石巻市など25市町村
秋田県	4月26日（木）	講習会：仙北市 （角館榊細工伝承館） 現地視察：仙北市角館町	秋田市など16市町
山形県	5月8日（火）	講習会：山形市 （山形県庁） 現地視察：上山市	山形市など30市町村
福島県	4月26日（木）	講習会：二本松市 （二本松市役所） 現地視察：二本松市	二本松市など17市町村
山梨県	5月9日（水）	講習会：大月市 （富士東部建設事務所） 現地視察：大月市	大月市など8市町村
長野県	6月8日（金）	講習会：小海町 （小海町役場） 現地視察：小海町	長野市など25市町村
栃木県	5月23日（水）	講習会：矢板市 （矢板土木事務所） 現地視察：大田原市	日光市など9市町



現地講習会の実施状況



小山田十和田市長(左)との意見交換 ((右)総括災害査定官)

ATV青森テレビホームページより引用

道路の低温被害/凍上災認定で講習会 (22日19:36) 動画を再生

地面の下に霜柱が発生して舗装した道路が壊れる「凍上災」が災害認定される事になり、県では災害査定を国に申請する為の現地講習会を開きました。

「凍上災」は低温で、地面の下に霜柱が発生する事によって舗装した道路にひび割れがおきる災害で県ではことし、被害の大量発生を受けて6年ぶりに凍上災を災害認定し国に災害査定を申請するよう検討しています。きょうは凍上災の具体例を各市町村の土木担当者に説明しようとする被害の大きい十和田市滝郷地区の集落で現地講習会が開かれました。講習会には各市町村の担当者およそ60人が出席し災害査定を行う国土交通省の担当者が「凍上災」の被害の特徴や査定の申請に必要な調査などについて説明しました。県によりますと2006年の「凍上災」では県内でおよそ10億円の被害が出ていて、県では被害を取りまとめて今年中に復旧を行いたいとしています。



○ 現地講習会の模様は地元メディアにも取り上げられました。関心の高いことが分かります。

東奥日報H24. 5. 23朝刊4面掲載

冬季の低温で道路にひび割れ「凍上災」  
国の災害認定受けるには  
十和田県が市町村向け講習会

「凍上災」認定を受けるには、国土交通省の災害査定官による現地講習会に参加し、被害の状況や復旧計画などを説明する必要がある。県では、今年中に復旧を行いたいとしている。

「凍上災」は低温で、地面の下に霜柱が発生する事によって舗装した道路にひび割れがおきる災害で、今年度は、被害の大量発生を受けて6年ぶりに凍上災を災害認定し国に災害査定を申請するよう検討している。きょうは凍上災の具体例を各市町村の土木担当者に説明しようとする被害の大きい十和田市滝郷地区の集落で現地講習会が開かれました。講習会には各市町村の担当者およそ60人が出席し災害査定を行う国土交通省の担当者が「凍上災」の被害の特徴や査定の申請に必要な調査などについて説明しました。県によりますと2006年の「凍上災」では県内でおよそ10億円の被害が出ていて、県では被害を取りまとめて今年中に復旧を行いたいとしています。